

老健みやざき

第40号 令和6年3月



CONTENTS

- 「5類移行後」学びました（看護・介護研究部会）
- 相談員の役割とは？（在宅・支援相談研究部会）
- 「非常時の食事」学びました（栄養・給食研究部会）
- 新時代のリハを考える（リハ研究部会）
- 入所者のケアマネジメント学ぶ（ケアプラン研究部会）
- 「九州大会 in みやざき」12年ぶり開催！
- 会員施設（宮崎県内の介護老人保健施設）

上：大淀川から昇る朝日、下：大淀川に沈む月



「5類移行後」学びました

看護・介護研究部会「感染対策研修」

看護・介護研究部会は令和5年4月22日、JAアズム別館で「感染対策研修」を開きました。60人が受講、新型コロナウイルス5類移行への対応等を学びました。



開会にあたり、同部会の坂下和代委員長は「3年ぶりの研修会開催。その間皆様は、大変な思いをされたと思います。本日の研修会を今後の感染対策・治療・対応などの参考に

して下さい」と挨拶しました。

講師は宮崎県新型コロナウイルス感染症対策調整本部特任医師の佐藤圭創先生。「新型コロナウイルス感染症



の現状と5類移行後について」と題し、①現状と基礎知識、②感染流行予測、③インフルエンザと違い、④後遺障害急増、⑤治療薬、⑥ワクチンの効果、⑦5

類移行とは、⑧5類移行でエンデミックの状態（感染症の常在化）になる？⑨5類移行に対しての現在の準備状態、⑩まとめ・・・という流れで進められました。

「①現状と基礎知識」では4つのマスクの効果「飛沫感染予防」、「口腔内、鼻腔内、気道の加湿効果」、「手指に入ったウイルスが、鼻、口に入るのをブロック」、「他の人に移さない」をあげ、「口腔内、鼻腔内、気道が加湿されることで、せん毛運動が活発になり、感染しにくくなります」と強調しました。

「③インフルエンザとの違い」では、季節性インフルエンザにおける他者への感染のピークが「発症後」であること、また60歳以上の致死率が0.55パーセントであることにに対し、新型コロナウイルス（オミクロン株）の他者への感染のピークが「発症前1～2日」のため感染が広がりやすく、60歳以上の致死率が1.99パーセントと季節性インフルエンザよりも高い事などに触れ「新型コロナウイルスは季節性インフルエンザとは別物です」と

注意を促しました。

「⑨5類移行に対しての現在の準備状態」では、感染症の常在化を意味する「エンデミック状態」に言及、「終息ではなく一定数の感染が持続するということ」とした上で、わかってきたこととして、「インフルエンザのように、一般病棟の個室隔離で感染は広がらない」、「防衛策は、軽い接触では通常のエプロンとサージカルマスクで大丈夫」、「通常免疫の入院患者は、10日で他の患者に感染させない。患者の迅速な転院・転入を可能にする」などを提示。高齢者施設での準備として、新型コロナワクチンの接種をすすめることや、感染防御策の習得、陽性者発生時のシミュレーションなどを、医療機関との連携を強化しながら取り組んでいくことを提唱しました。

このように新型コロナウイルス感染症がエンデミック化することや、5類移行後、大きなピークが夏と冬にやってくることなどを、豊富なスライドを用い、わかりやすく説明した佐藤先生。新型コロナ禍を「各機関が連携するより良い機会」と考え、「行政、医療、福祉機関、企業団体が最悪の場合のシナリオを考えておくことが大事です」と講演を締めくくると、会場からは感謝の拍手がおくられました。

続いてグループワークがあり、参加者は自施設における新型コロナウイルス感染症への取り組み状況等について活発に意見を出し合いました。「陽性者発生時に大変だった点」、「陽性者発生時にうまくいった点、工夫した点」、「陽性者発生時に感染防止できた対策」、「これまでの面会、これからの面会について」をテーマに意見を交換。最後に全体発表が行われると、参加者は自分のグループや、自施設での状況等と照らし合わせながら、真剣な表情で聞き入っていました。



相談員の役割とは？

在宅・支援相談研究部会

在宅・支援相談研究部会は令和5年7月15日（土）宮崎市民プラザで研修会を開催。39名が参加し老健における支援相談員の役割について研鑽を深めました。

開会にあたり同部会の別府和男委員長は「コロナ5類移行でやっと通常開催できた研修会。実りあるものにしましょう」と呼び掛けました。



まず「地域に開かれた介護老人保健施設を目指して～支援相談員の役割を考える～」と題し、介護老人保健施設ひむか苑の事務長で、当協会の川越康史事務局長が講演しま

した。「支援相談員は老健におけるエンジン。かからなければ動かないし、回転数が上がればより速く、より強く動けます。老健が在宅復帰・在宅療養支援を行う上で要となるのは支援相談員」と切り出しました。そして「ベッドコントロールは支援相談員の最重要業務、否応なく経営の根幹を支えるということ。皆さん相当のプレッシャーを受けているはず。利用者と施設経営、利用者とは職種等の間で支援相談員は板挟みとなり、何を優先すべきか判断が難しくジレンマに陥ることも多いのではないのでしょうか。しかしそれだけ大事な役割を期待されていることを認識して下さい」と言葉に力を込め「施設の収入確保も、ケアの質向上も支援相談員が鍵を握っています。見ている人はちゃんと見てくれています。日々の業務に自信と信念を持ち、有言実行、言行一致で精進して下さい」と訴え演台を下りました。

続いて「地域と共にある老健を目指して～認知症当事者と家族が安心して暮らすために～」と題し、大牟田市の医療法人静光園白川病院医療連携室の猿渡進平室長に講演をしていただきました。

在宅復帰、在宅療養支援のための地域拠点である介護老人保健施設独自の職種である支援相談員は「その人らしく地域で暮らしていくために必要な社会的サポートや、家族と施設、家族と利用者といった関係をコ

ーディネートする『相談窓口的な機能』を担っています」と、その存在と役割の重要性を説きました。

また地域共生社会を実現するため、認知症 SOS ネットワークの模擬訓練に取り組み、地域への理解を深めている様子や、住民と共に高齢者等の暮らしを支える一環として、NPO 法人「しらかわの会」を設立、戸別訪問等日常生活支援事業を展開した結果、病院の在宅復帰率が向上したことを紹介すると、参加者は身を乗り出して聞き入っていました。

認知症高齢者が町を支える活動として、本人がスタッフとに家々を回り、宅配物を渡す様子を紹介。住民とのつながりができ、本人が安心して外出できる環境を作るだけでなく、労働の対価として報酬も得ている姿は、リハビリテーションが目指す社会参加の実践そのもの。猿渡室長は「地域共生社会は『For』から『With』への転換。『誰かのためにしてやる社会』ではなく『地域の人と資源を循環させ、すべての人が一緒に、支えたり、支えられたりしながら創っていく、誰もが役割と生きがいを持つ社会』です」と地域共生社会の意義を力説し、締めくくりました。

この日はグループディスカッションもありました。コロナ禍で困難だった施設を超えた交流が深まり、問題意識を共有する大変意義深い機会となりました。



研修会は、宮崎県医療ソーシャルワーカー協会との共催で開催されました。閉会にあたり、同協会の小森有英子会長は、「今日の講演を聞いて、皆が自分の生活の中での役割を持つことで生きがい、やりがいを得られるのだと思いました。それを他職種で見つけていくことが大事。当協会も様々な悩みや課題を共に解決していきながら、皆の拠り所になりたいと思います」と締めくくりました。



「非常時の食事」学びました

栄養・給食研究部会

栄養・給食研究部会は令和5年8月4日、潤和リハビリテーション財団で研修会を開きました。27名が参加し、講演や情報交換会を通じ、研鑽を深めました。

今回の研修テーマは「非常時の食事について」。開会にあたり同部会の宮前春菜委員長は「本日は非常食作りの実演も予定していますので、それぞれの職場で役立ててもらいたいと思います」と挨拶しました。



講演「非常時の食事について」では、防災備蓄や非常食に使用されるアルファ米等を取り扱うアルファ食品株式会社営業本部福岡営業所の清武智シニアアドバイザーを講師に招きました。アルファ米の特徴の紹介に



続き、2016年の熊本地震について「地震発生時、物資を届けようにも交通手段がなく、中まで入ることができませんでした。集積所に物資が集まり、自衛隊がそこからそれぞれの現場に運ぶのですが、国道が通れずそこまで行けませんでした。遠回りをし、裏からやっと入りました」と当時の苦労を振り返りました。

被災者を対象にしたアンケートを示し「『水が不足』と回答した人が一番多く、全体の半数以上、次いで『食料』という結果でした。生きていく上で生命線である水の確保が第一。一人一日約2リットルが必要と言われていますが、それを確保するのが難しくなります。飲み水、そしてトイレ用の水など、皆さんも水の確保についてはしっかり話し合っておください」と訴えました。

「避難者数と食料供給量」では、2016年4月14日に地震が発生し、3日後の4月17日に避難者数がピークに達したとのこと。これに対し、政府によるプッシュ型の食料供給は3日遅れの4月17日に始まり、供給がピ

ークになったのが4月20日だったことから、「避難者数のピークと食料供給量のピークが異なったわけです。つまり、『必要なときに食料が不足していた』ということです」と、清武シニアアドバイザーは強調しました。その上で「災害発生から家庭で最低3日間の食料備蓄が必要です。最初の3日間は普段の食事でもたせて、それがなくなってから防災用の食事を、ということです」と言い添えました。そして「『私の施設、私の家は、道路の反対側にスーパーやコンビニがあるから、そこから買えばいい』と言う人がいますが、災害が起こるとそこまでたどり着けなくなりますし、商品が1階にあると水害でだめになります。雨が降る量が尋常じゃなく『こんなことは初めて』ということが近年出てきています」と警鐘を鳴らし、2階や3階で備蓄したり、各病棟の中で非常食を備蓄したりしているところがあることが紹介されました。

また「『賞味期限が切れたものを食べてよいか?』とよく聞かれますが、我々メーカーとしては『食べないで下さい』と言っています。保存しているところがわかりませんし、メーカーの命取りになります」と付言し、備蓄した職員を定期的に消費し、食べた分だけ買い足していく「ローリングストック法」が有効だと示しました。

さらに食物アレルギーについて「災害時には精神的な不安が高まり、身体の免疫力も落ち、普段は何もなくても、ストレスがかかることでアレルギーが出てしまうことがあるし、食べるものがなくてしょうがなく食べてアレルギー反応が出た人もいます」と注意喚起しました。

その上で日本災害食学会が定めた「日本災害食認証基準」に言及し「口に入れるものですから、自主検査だけでなく、食品安全に関する国際規格の認証を取得した施設で製造された安心、安全な保存食を備蓄することが大切です」と呼びかけ、講演を締めくくりました。



新時代のリハを考える

リハビリテーション研究部会

リハビリテーション研究部会は令和5年10月28日 JA・AZM 別館で2023年度の研修会を開きました。35人が参加し、介護老人保健施設におけるリハビリテーションのあり方について学びました。

開催にあたり同部会の長友太志委員長は「『コロナ禍で他の施設の取組状況も、スタッフの顔もわからない』という声があり、今回は県内の老健リハビリ職の関わりを取り戻すことを目的に開催しました。



参加者間で顔をつなぎ、情報を交換し、各施設でのリハビリにつなげて下さい」と呼びかけました。

「講演1」は「こんにちわセンターにおける在宅復帰支援」と題し、同センターの理学療法士、中村豪志さんが演台に立ちました。在宅復帰の要素として、①要介護者の心身機能、②社会的環境、③家族介護者の状態、④物理的環境…の4つを提示。また在宅復帰を支援する上で必要な入所前後訪問、退所前訪問、退所後訪問を実践



する中で取り組んでいる、エクセルを用いた見取り図の作成およびその利点を紹介。さらに「本人の能力、自宅環境、人的環境を総合的に評価できるツールが欲しい」といった在宅支援の課題を解決するた

め、独自に開発した「在宅復帰マネジメントツール」について説明しました。このツールを活用することで、①在宅復帰の明確化、②老健の在宅復帰支援機能の促進、③要介護者の在宅復帰に寄与…といった効果あることが説明されると、参加者は興味深く聞き入っていました。

「講演2」は「サンフロラみやざきでのリハビリの取り組みについて」と題し、同施設の理学療法士、首藤靖典さんがマイクを握りました。通所リハについての概説に続き、リハビリテーション会議について、リハスタッフが家族やケアマネジャー、関係事業者と連絡をとり、日程を調整している同施設では、全体のスケジュールを把握できるよう、施設独自の管理表を用い、情報を

共有しているとのこと。

また利用者に農業従事経験者が多いことに鑑み、作品作りの一環として、庭いじりや季節の野菜作りなどにも取り組んでいることが紹介されました。



さらに施設での取り組みの他、地域活動として地域ケア会議や介護認定審査会に加え、新型コロナウイルスのため中断していた「介護劇」も再開しようとしているという話に、参加者は高い関心を払って聞いていました。

またセラピストの臨床技術を目的に行っている、外部講師を招いての「臨床技術講習」について、サンフロラみやざきでは、県内の指導者を毎週招き実施。機能解剖学やクリニカルリーズニング、アライメントの見方、動作観察および分析、治療技術、そして仮説からの治療への繋げ方など、密度の濃い内容をセラピストが学習。臨床技術の向上を通じてマンネリ化したリハビリからの脱却をはかり、「『サンフロラに行けば、良くなって、歩いて帰って来られるようになる』と言われるような、地域に信頼される施設を目指しています」と目を輝かせて話す首藤さんの話に、参加者は身を乗り出して聞き入っていました。

講演に続きグループディスカッションがありました。各グループで、参加者同士が意見を出し合い、問題意識を共有。各グループの代表者が発表を行い、参加者は自分のグループの意見と照らし合わせながら耳を傾けていました。



入所者のケアマネジメント学

高齢者ケアプラン研究部会

高齢者ケアプラン研究部会は令和5年11月24日、JA・AZM別館で令和5年度の研修会を開きました。21名が参加し、高齢者のケアマネジメントについて研鑽を積み、交流を深めました。

同部会は令和元年11月を最後に、新型コロナウイルスの影響で研修会開催が途絶えており、この日は実に4年ぶりの研修会。挨拶に立った同部会の竹内詠規委員長は、感無量の表情でマイクを握りしめました。



講師は、ハーモニーライフサポートの増田登賜隆代表。奇しくも増田代表は4年前、同部会がコロナ前最後に開いた研修会の講師。増田代表は「4年ぶりですので、今日の研修会は『交流』が一番の目的。本日は



大いに語り尽くしてください」と呼びかけました。

研修会は参加者を7つのグループに分けて進められました。

メンバーの自己紹介に続き、個人ワークがあり、①ケアプラン作成での悩み、②認知症の入所者への対応方法、③対応に苦慮しているケース、④家族対応・・・について各個人の意見をまとめていきました。

これを踏まえてグループワーク。増田代表はメンバー間で考えを共有するとともに、「大いに雑談し、交流して下さい」と促しました。それを皮切りに各グループでは参加者が自施設の状況や、自分が抱える問題、悩みなどを積極的に語り合うようになり、静かだった会場は一気に熱を帯びてきました。その光景はこの4年間みられなかったもので、それぞれの参加者が、このような集合形式での研修会をどれほど渴望していたかを垣間見るようでした。途中増田代表が10分間の休憩を挟んでも、席を立つ参加者は数えるばかりで、各グループでは参加者の身振り手振りの振り幅も大きいまま、交流が途絶える事はありませんでした。

休憩後、増田代表による講義が30分ありました。認知症に関してまずICF（国際生活機能分類）の概説

を踏まえ、認知症の事例をこれに照らしながら、生活機能が低下する因果関係とキーポイントは別であることや、認知症を予防する上で重要なポイントとなる「DESS ティニー(運命)」（食事:diet、運動:exercise、睡眠:sleep、ストレスの軽減:stress reduction）、ロコモーショントレーニング、行動心理症状(BPSD)の理解や病因ときっかけおよび予防についてスライドを用いて説明が進みました。さらに「介護は観察に始まり観察に終わる」として「『介護過程』と『実施過程』」の実施と記録を、PDCAサイクルやSOAPの技法を用いて行うことといった解説のひとつひとつに、参加者は高い関心を払いながら聞き入っていました。

研修会も終盤になり、各グループかで話し合われた内容が発表されました。職員不足に関する事に始まり、個別ケアを見据えたケアプランの策定、他職種との連携、プラン変更のタイミング、職員指導、ターミナルケアのあり方などが、各グループの代表から報告されました。「以前は家族が自由に施設内に入り、利用者と面会できていた。しかしコロナ禍になってそれができなくなり、心身の状態変化を電話などで説明するのに、家族へ十分理解できていないのではないかと感じている」などの発表に、参加者一同、共感の表情を見せて聞き入っていました。

最後にグループの枠を超え、自由に意見交換する機会が設けられました。参加同士の熱いトークはとどまることを知らず、いつまでも情報の交換、問題意識の共有は続き、4年ぶりに集合形式で行われた研修会は非常に有意義なものとなりました。

「今日はケアプラン作成での悩みや認知症の入所者への対応方法など、意見を出し、共有できたでしょうか。悩みは尽きないと思いますが、今日のように話し合い、共有できる機会はあります。今後もそういった場をうまく活用していきましょう」と締めくくった増田代表に、参加者からは感謝の拍手がおくられました。



明日に繋げる「チーム力」

九州大会inみやざき12年ぶり開催！

第23回九州ブロック
介護老人保健施設大会
inみやざき

老健今!!
明日に繋げる「チーム力」
一人ひとりがかげがえのない
ひなた。

令和6年7月11日(木)～12日(金)

会場 フェニックス・シーガイア・リゾート
コンベンションセンター
☎ 0935-21-1166 ☪ 宮崎県宮崎市山崎町保山

大会会長 野津原 勝

【主催】公益社団法人全国老人保健施設協会九州ブロック / 宮崎県老人保健施設協会 【HP】 <https://www.kyokai.or.jp/>

「第23回九州ブロック介護老人保健施設大会 inみやざき」を令和6年7月11日(木)と12日(金)、宮崎市のシーガイアコンベンションセンターで開催します。

大会テーマは「老健今!!明日に繋げる『チーム力』～一人ひとりがかげがえのないひなた～」。

九州各県持ち回りで開いていたこの大会、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が見送られた期間があったため、宮崎では平成25年(2013年)11月に開いた第14回大会以来、実に12年ぶりに開催できる運びとなりました。大会成功に向け、これから大会専門サイトの立ち上げや参加・演題の募集をはじめ、関係スタッフが一丸となり、「チーム力」を発揮して取り組んで参ります。

参加者一人ひとりにとって、明日に繋がり、かけがえのない有意義な大会にしたいと存じますので、皆様のご理解、ご協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

会員施設（宮崎県内の介護老人保健施設）

施設名	郵便番号	住所	電話番号	ファックス番号
介護老人保健施設 螢色苑	889-0101	宮崎県延岡市北川町川内名7055-2	0982-46-2295	0982-46-3062
介護老人保健施設 シルバーケア新富	889-1406	宮崎県児湯郡新富町大字新田481-1	0983-33-0120	0983-33-0221
介護老人保健施設 なでしこ園	884-0002	宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋3225	0983-23-8023	0983-22-5933
介護老人保健施設 信愛ホーム	880-2221	宮崎県宮崎市高岡町内山2424	0985-82-5588	0985-82-5602
介護老人保健施設 サンフローラみやざき	880-1111	宮崎県東諸県郡国富町大字岩知野字明久355	0985-75-2020	0985-75-2897
介護老人保健施設 はまゆう	889-1914	宮崎県北諸県郡三股町大字蓼池660	0986-51-0001	0986-51-0010
介護老人保健施設 ハッピーライフ高城	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊455-2	0986-58-5566	0986-58-5567
介護老人保健施設 グリーンホーム	889-1911	宮崎県北諸県郡三股町大字長田1270	0986-52-7011	0986-52-6186
介護老人保健施設 しあわせの里	889-2401	宮崎県日南市北郷町大藤甲3589-1	0987-55-4800	0987-55-4507
介護老人保健施設 サンヒルきよたけ	889-1601	宮崎県宮崎市清武町木原5886-16	0985-84-0333	0985-84-0700
介護老人保健施設 さくら苑	889-4314	宮崎県えびの市大字大河平4327-37	0984-33-2127	0984-33-5253
介護老人保健施設 菜花園	881-0026	宮崎県西都市大字穂北宇東原5253-4	0983-42-1122	0983-42-2210
介護老人保健施設 並木の里	881-0113	宮崎県西都市大字下三財8124-8	0983-44-6066	0983-44-5109
介護老人保健施設 長寿の里	889-3531	宮崎県串間市大字奈留5298-3	0987-74-1010	0987-74-2217
介護老人保健施設 メディケア盛年館	883-0051	宮崎県日向市向江町1-196-2	0982-53-8788	0982-53-8780
介護老人保健施設 ラポール向洋	883-0021	宮崎県日向市大字財光寺1131-24	0982-54-5016	0982-54-5018
介護老人保健施設 慶福塾	883-0033	宮崎県日向市大字塩見10947-1	0982-54-6541	0982-55-3209
介護老人保健施設 みずほ	886-0007	宮崎県小林市大字真方87	0984-23-4152	0984-22-1239
介護老人保健施設 さわやかセンター	886-0003	宮崎県小林市堤3008-1	0984-25-1234	0984-24-1748
介護老人保健施設 すこやかセンターこばやし	886-0004	宮崎県小林市細野2033	0984-22-3397	0984-22-3423
介護老人保健施設 相愛苑	886-0006	宮崎県小林市北西方字種子田原66-3	0984-24-1874	0984-24-1872
介護老人保健施設 みどりの丘	887-0023	宮崎県日南市大字隈谷甲1218-1	0987-27-2525	0987-27-2529
介護老人保健施設 おびの里	889-2535	宮崎県日南市鉄肥6-1-15	0987-25-2012	0987-25-2013
介護老人保健施設 ハイム苑	887-0021	宮崎県日南市中央通1-10-15	0987-23-0844	0987-23-5923
介護老人保健施設 マイ・グリーンヒル	882-0863	宮崎県延岡市緑ヶ丘5-2-22	0982-32-8333	0982-32-5051
介護老人保健施設 トロみのる園	889-0516	宮崎県延岡市鯛名町422-9	0982-37-3336	0982-37-6780
介護老人保健施設 エクセルライフ	882-0803	宮崎県延岡市大貫町1-2850-1	0982-32-1550	0982-32-1553
介護老人保健施設 昭和苑	882-0867	宮崎県延岡市横口町2-125-1	0982-22-3200	0982-22-3211
介護老人保健施設 ウェルネス苑都城	885-0053	宮崎県都城市上東町27街区16号	0986-21-1006	0986-21-1007
介護老人保健施設 こんにちわセンター	885-0079	宮崎県都城市牟田町4街区10号	0986-22-7100	0986-22-8055
都城市郡医師会介護老人保健施設 すこやか苑	885-0062	宮崎県都城市大岩田町5812	0986-39-1107	0986-39-5559
宮崎江南病院附属介護老人保健施設	880-0916	宮崎県宮崎市大字恒久字鳥の巣6245-1	0985-50-6070	0985-50-6076
介護老人保健施設 ひむか苑	880-2112	宮崎県宮崎市大字小松1158	0985-47-3434	0985-47-5376
介護老人保健施設 エンゼルホーム	880-0125	宮崎県宮崎市大字広原1350	0985-37-1588	0985-37-1556
介護老人保健施設 グリーンケア学園木花	889-2151	宮崎県宮崎市熊野470-2	0985-58-3000	0985-58-8000
介護老人保健施設 あおしまのいえ	889-2162	宮崎県宮崎市青島4-6-3	0985-65-1122	0985-65-2110
介護老人保健施設 ことぶき苑	880-0925	宮崎県宮崎市本郷北方字池田4043-1	0985-56-6622	0985-56-6628
介護老人保健施設 春草苑	880-0041	宮崎県宮崎市池内町数太木1749-1	0985-39-8899	0985-39-8978
介護老人保健施設 むつみ苑	880-0041	宮崎県宮崎市池内町伊勢領1344	0985-39-9200	0985-39-9506
介護老人保健施設 シルバーケア野崎	880-0837	宮崎市村角町高尊2105番地	0985-28-6555	0985-28-6580
介護老人保健施設 東海園	882-0017	宮崎県延岡市川島町1080番地5	0982-30-1661	0982-30-1665
のべおか老健あたご	882-0846	宮崎県延岡市中島町4丁目314番地3号	0982-34-7575	0982-34-7579
このはな介護老人保健施設	880-2104	宮崎県宮崎市大字浮田1677番3	0985-82-8600	0985-82-8601

【編集・発行】

（公社）宮崎県老人保健施設協会

〒880-2112 宮崎市大字小松 1158 番地 TEL.0985-47-3941 FAX 0985-47-3967

ホームページ <http://www.miyazaki-roken.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/miyazakiroken>